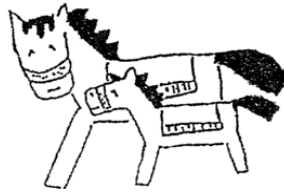


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

26年 2月 NO. 231



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		2月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
2月 7日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「どうぶつ探検」をテーマにしっぽの働きや鬼の話もあります。		
2月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って一緒にあそびましょう。		
2月 8日	土	お手玉教室 14:00～16:00	最後のお手玉教室です。なつかしい童謡のオカリナ演奏もありますので是非おいで下さい。		
2月 15日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験においで下さい。		
2月 17日	月	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	3月1日(土)の国分寺ホール13時～16時の金子みすゞ生誕110年記念行事について打ち合わせします。		
2月 21日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科)にゆっくり相談できます。(予約要)		

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



ひとりひなが
そこから日永にながめてりや、
ちらりと影になりました。

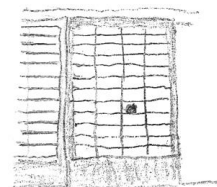
窓はいつだか、すねたとき、
指であたしがあけた窓。

ひとつつひらいたあの窓を、
どんな子供がのぞくやら。

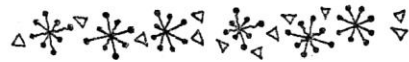
四十七間の部屋部屋へ、
誰が入ってくるのやら。

あとのおへやはみんな空。
一つの部屋に蠅がいて、
お部屋の障子は、ビルディング。
空まで届く十二階、
お部屋のかずは、四十八。

障子



今月は、母子健康協会発行の「ふたば」に掲載されていた井桁容子先生（東京家政大学ナースリールーム主任保育士）の子育て支援・親支援についての思いを本文から抜粋してご紹介します。



「今、求められている本当の意味での子育て支援・親支援とはどのようなものでしょうか？そして、子どもたちはどんな大人の存在を求めているのでしょうか？」



1. 子育ての悩みの背景にあること

これまで、いろいろな子育てについての悩みの相談にのってきました。そんな中で、いろいろ話を聞くうちに、悩みの根本的なところは子どものことではなく、結果的にはその人の成育歴、特に母親との関係が大きく影響していたということがよくあります。出産も里帰りせず、産後も育児にゆとりがないのに自分の実家に帰ろうとしないので、それとなく理由を尋ねてみると「母も仕事をしていますので・・・」とか「介護があるので・・・」などそれなりの理由はあるようなのですが、どうもそれだけではなさそうなのです。自分の母親に弱音を吐くと「私は頑張ってきたのに、何を甘えているの?!」と、反対に叱咤されて傷ついてしまい、自己肯定感がさらに持たなくなって子育てに自信を無くしてしまったり、「もう子育てはたくさん。自由に生きさせて」と孫の世話を断られたりしているのです。あるとき保護者から子育てについての相談を受けていると、「先生は、いつも子どもの味方なんですね。私の味方になってくれない・・・」というので、「それはそうですよ、だってお母さんは、こうして自分の気持ちをことばにして、困ったことを解決できるけど、子どもたちは自分の気持ちをうまく表現できないし、表現させてもらえる間も与えられないことが多いですからね。不公平にならないように通訳しておかなくちゃ。」と笑って答えたら、みるみるお母さんの瞳が涙でいっぱいになりました。そして、「私も先生みたいなお母さんに育てられたかったなあ・・・」というのです。そして続けてこう言いました。「私は、自分の母親の顔色ばかり見て育ちました。どうしたら母親に認めてもらえるか、褒められるかと・・・。でも、あるときそれが頑張りがきれなくなって、お母さん、私はダメな子どもだと思ってあきらめてといたんです。そうしたら、私の母はなんと答えたとおもいますか？それじゃあ、私が恥ずかし

いでしょ！！って……。これまで私が頑張らされたのは、私のためではなくて母親自身のためだったと分かって、すごく傷ついて、その後すごく荒れました」



2. 悲しい親と子の頑張り

私が出会った親子のエピソードを通して、これからの子育て支援の在り方をさらに深く考えてみたいと思います。

地域の母親向けの子育て講座が終わったあと、「自分の子どもがかわいく思えないのですが……」という相談を受けました。その時は、自信がなくて当たり前ですよ。ありのままのお子さんを認めて面白がってあげるだけで、子どもは自分の力で育っていきますから大丈夫です。というようなことを伝えると、涙ぐみながら「なんだかほっとしました。頑張らなくていいんですね。」と喋ってくれたので、私の思いは伝わったようでした。しばらくして、その母親から手紙が届きました。

私の姉と母のことで、相談があります。


私の姉は、私と違って成績が良くいつも優等生で、親にとって自慢の子どもでした。父が医者なので、姉にも医者にならせたかったようで、そのためにはクラブ活動には入らずに塾に行って勉強するようと言われ、姉は約束を守って勉強一筋に頑張ってきました。そして、見事医学部に入り、医者になりました。一方、私はというと、同じように頑張るよういわれたのですが、親の言うことをきかずに運動部に入り、大学も文学部に入りましたので、両親は気に入らないようでした。

エリートコースまっしぐらの姉が、結婚をして子どもも生まれたのですが、仕事のことで悩み、精神状態が不安定になり離婚をして実家に出戻ってしまいました。私はといえば、会社勤めをして職場結婚後、退職して専業主婦になりました。妊娠が分かった時に、産前産後は助けてほしいと母親に連絡をしたら、「親の言うことも聞かずに、好き勝手なことをして生きてきて幸せになっているあなたはずるい。困ったとしても、そんなの自業自得というものよ。それに比べてお姉ちゃんは、親の言うことをきいて一生懸命頑張ってきて、不幸になっているなんてかわいそう。」と言われたのです。悲しかったです。姉と母の関係は、今でも一雙性双生児のような密着で異様に思い、心配なのですがだいじょうぶでしょうか？そして、

本当は、私も傷ついているのです。もうすぐ40歳にならんとしている大人でありながら、母親に愛されている姉のことがうらやましくてたまりません。私もまだ、自分の母親に愛されたいと思っています。そして我が子が愛せないのです。

頑張っ て報われない人をみたら誰でも同情したくなりますが、しかし、子どもが親の期待に応える頑張りの姿をみると、親の方にどこか罪深さを感じるのはわたしだけでしょうか？自分の思いを押し殺し、親の評価を気にしながら頑張りを続けることで得たものが、必ずしも本当の意味での自分自身が求めていた幸せや、自信や自己肯定感につながっていないのです。その時代（今も）、日本の社会は受験戦争と言われていた時代、つまり学歴偏重社会でした。親がそのことに敏感に反応することは、ある意味で仕方がなかったことと言えるでしょう。そして、夫が会社に取りられ、育児を自分一人に任された専業主婦たちが、自分の力を評価されるのが子どもの出来栄だとすれば、力のある女性が全力でわが子に対して目に見える良い結果が出るよう頑張ることも当然です。そのような意味で、この手紙の長女は親にとっては共に戦った戦友でもありますから、労り合うことになるのでしょう。一方、自分の思いをとおした次女のほうは、親の期待に応えなかった裏切り者扱いになってしまっています。そして、大人になって夫に愛され子育てをしているのにもかかわらず、自分の親に愛されていないことで自己肯定感が持てなくて、わが子も愛せず苦しんでいます。

なんとも切ない世代間にわたる問題です。このことは、当事者たちにはどうにもなりません。なかなか家庭内で起こっていることを客観的に見ることはできないからです。その連鎖を断ち切るとしたら、今、子育て支援に関わる専門家たちがこれらの社会的背景を理解して、子育て中の親のありのままを受け止め、親自身の自己肯定感を支えることから始まらなければならないのだと思います。



井桁 容子（いげた ようこ）

昭和30年5月2日生 東京家政大学短期大学卒 東京家政大学ナーサリールーム主任

東京家政大学及び短期大学部 非常勤講師

著書 「みんなの育ちの物語」「ていねいなまなざし」でみる乳幼児保育 他 フレーベル館

NHK 教育テレビ「すくすく子育て」助言者 フジテレビ「ほんまでっかTV」出演